ファインスチール　第70巻　2号　通巻618号　4、8、12月25日発行　令和8年4月25日発行　ISSN1348−494X

ファインスチール

Fine Steel

2026年
4月

CONTENTS

01 特集1
第24回　金属サイディング
施工例フォトコンテスト

05 特集2
「全国ファインスチール流通協議会」展示会出展報告
建築フェア四国2025 in 松山

07 ファインスチールを使った建築設計例 354
中野U
光を放つ ——
設計:都留理子+大嶋笙平／都留理子建築設計スタジオ

11 建築めぐり
ウォートルス伝 39　丸山雅子

13 街でみかけるファインスチールの施工例　その63

2026年度より
ファインスチール誌発行が
年3回
(4月・8月・12月)
に変更となります

一般社団法人 日本鉄鋼連盟

特集 1

第24回　金属サイディング
施工例フォトコンテスト

（主催：日本金属サイディング工業会　後援：一般社団法人 日本鉄鋼連盟）

日本金属サイディング工業会が一般社団法人 日本鉄鋼連盟の後援により、2025年6月1日～9月30日を応募期間として実施した「第24回金属サイディング施工例フォトコンテスト」について、受賞された施工例の写真を中心にご紹介します。

新築部門 最優秀賞 / 重奏美の家

株式会社ホリエ（山形県）

この度は、最優秀賞という名誉ある賞に選出していただき、誠にありがとうございます。本計画地は山形県米沢市という豪雪地帯に位置し、かつ旗竿地という特殊な条件下にありました。道路からの視認性は低いものの、敷地に足を踏み入れた瞬間に邸宅としての豊かさを感じられるよう、また、厳しい雪の処理にも配慮した設計を行いました。ファサードは2つのヴォリュームを重ね合わせ、異素材の外壁を組み合わせることで奥行きを演出しています。特に水下側の軒高を2,200㎜に抑えることで外観の間延びを防ぎ、重心の低い落ち着いた佇まいとしました。一方で室内は勾配天井を採用し、外観からは想像できない開放的なLDKを実現しています。建築とは、多様な素材が積み重なり構成されるものです。その重なり合いが生む複雑で深みのある美しさを、私たちは「重奏美（じゅうそうび）」というコンセプトで表現しました。今回の受賞は、私たちを選んでくださったお施主様、そして施工に尽力してくださった社内外の皆様のおかげです。関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

木幡 瑞輝さん（設計提案部 リーダー）

●江口特別審査委員のコメント

本作品は、エッジの効いたデザインとコントラストの明確な配色を特徴とします。特に片流れ屋根と斜め窓による平行線の構成、ならびに白いゲートの角度および配置には高度な意匠性が認められます。ファサード全体に施された前後左右の凹凸が空間にリズムを与え、斜めの構成要素や縁側のようなテラス計画により、日本建築に見られる直線美とくつろぎの空間性が表現されています。また、植栽計画やカーポートのレイアウトにおいてもバランスが重視されており、金属サイディングによる直線的な外観が住宅・庭・街区を結ぶランドマーク的役割を果たしています。

●杉田特別審査委員のコメント

片流れ屋根のシンプルな形状の住宅ですが、玄関アプローチの上に逆方向に流れるゲイト?がたいへん印象的な住宅です。片流れを組み合わせた形状の面白さがあり、住宅本体はブラックの金属サイディングで、それと対比するようにホワイトとしたことで、一層引き立っています。また、ゲイトの下は石張り風の外壁として重厚感がありますし、テラスのウッドデッキも自然を感じさせて良いですね。今回の新築部門の審査では、ほかに写真として魅力のあるものや、癒される空間を感じさせる作品などがあり、どの作品を最優秀とするか、最後まで迷いました。その中で、最もバランスが取れた作品として本作品を最優秀とさせていただきました。その他、写真として残念に感じる作品もありました。このコンテストは施工例フォトコンテストで、残念ながら直接作品を見ることができません。建物が映える、また設計者の意図や建物イメージが伝わるように撮影していただいて、さらに良い作品の応募を期待したいと思います。

金属サイディング施工例フォトコンテストは、日本金属サイディング工業会加盟8社が、全国の設計事務所・工務店・金物店・板金店の協力を得て、金属サイディング普及活動の事業として実施しているもので、第24回は全国から1,967作品の応募がありました。
新築及びリフォームで建物の外装に金属サイディングを使用したものを対象とし、新築では建物の意匠性・高級感・コーディネート感覚など、トータルでバランスのとれた作品、リフォームでは『施工前⇒施工後』で優れたイメージアップの見られる作品を審査委員会で選考しました。その結果、最優秀賞2作品（新築・リフォーム各1作品）、優秀賞8作品（新築4作品・リフォーム4作品）、入選賞40作品（新築20作品・リフォーム20作品）が選ばれました。
また、東日本大震災発生以来実施している被災地に対しての義援金寄付は前年に引き続き総額196，700円（募集作品件数に応じた額）を日本赤十字社を通じ寄付いたしました。

［審査委員会］
・特別審査委員　江口惠津子（株式会社ヴェルディッシモ代表取締役、一般社団法人日本フリーランスインテリアコーディネーター協会会長）
・特別審査委員　杉田宣生（一級建築士事務所 ハル建築研究所 代表）
・当会審査委員　理事・幹事・技術委員・事務局

リフォーム部門 最優秀賞 / 銀座東ビル

株式会社朝日国際グループ（東京都）

当社のビルが今回最優秀賞に選出されたとのことで非常に嬉しく思っています。
築約50 年のとても古いビルでしたが信頼しているA 社にリノベーションを依頼したことで非常にキレイな外観に生まれ変わりました。
施工前は暖色系の外壁でしたが、今回は白と黒等のコントラストを効かせた貼り分けとしたことで都会的でスタイリッシュなファサードとなったと思います。
施工に尽力してくださった職人の皆様に心より感謝申し上げます。

謝 漢鋒さん（代表取締役）

●江口特別審査委員のコメント

銀座に位置していた旧来の建造物が、新たなデザインアプローチにより全面的に再生されました。本プロジェクトでは、立方体状のカラースキームを採用し、建物の安定性と都市環境との調和を両立させつつ、周辺街区に対して印象的なアクセントとなるファサードを創出しています。
著名なカプセルタワーを想起させる本事例は、資産価値の向上を実現した先進的リノベーションとして、高い評価を受けており、最優秀賞に相応しい内容となっています。

●杉田特別審査委員のコメント

今回のリフォーム部門の最優秀は、角地に建つ4階建ての小規模ビルのリフォームです。鉄骨造で外壁はALCでしょうか、どこにでも見かける小規模ビルです。リフォーム前は、野暮ったい（と言ってはなんですが…）建物でしたが、リフォーム後は、見ていただくとおり、ブラック系とホワイト系の金属サイディングを交互に張って、箱を重ねたような、お洒落なファサードになりました。角地に建つことから、町の目印になるような建物に生まれ変わりましたね。リフォーム部門の審査は、毎回悩みます。ほかに住宅の張り替えとして魅力的な作品などもありましたが、今回は、とても特徴的な本作品を最優秀とさせていただきました。リフォームについては、今後、益々需要が増えていくものと思われます。今後も金属サイディングの特徴を活かした、多様なリフォームの作品を期待したいと思います。

新築部門 優秀賞

㈱アカサカシンイチロウアトリエ
（北海道）

新築部門 優秀賞

㈱八戸建設
（岩手県）

新築部門 優秀賞

㈱児玉建設
（秋田県）

新築部門 優秀賞

㈱サンクリエーション
（和歌山県）

リフォーム部門 **優秀賞**

㈱FCハウジング（北海道）

リフォーム部門 **優秀賞**

㈲小山田建業（北海道）

リフォーム部門 **優秀賞**

㈲加藤板金（秋田県）

リフォーム部門 **優秀賞**

株式会社イースマイル（大阪府）

「全国ファインスチール流通協議会」展示会出展報告

建設フェア四国2025 in 松山

主旨 ： 建設技術や研究成果等について、産・学・官が共有するとともに、市民に向けて発信することで、くらしと建設技術が深くかかわっていることを理解して頂く事が目的。

会期 ： 2025年11月21日（金）・22日（土）

会場 ： 愛媛県松山市 アイテムえひめ

主催 ： 四国建設広報協議会

耐震装置と遮熱装置に興味津々な来場者。

●初日から当協議会ブースは大盛況

全国ファインスチール流通協議会として初の四国での展示会に参加。オープンセレモニー及びテープカットが執り行われ、いよいよ開幕しました。

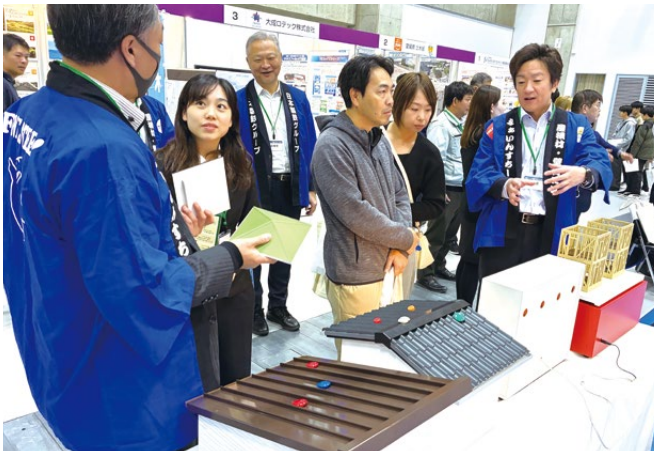
法被を着た当協議会スタッフによる懸命な呼び込みにより、足を止めて説明を聞いてくれました。特に、耐震装置と遮熱装置に釘付けでした。外壁としても優秀なファインスチール。レプリカを手に取り、真剣に説明を聞いてくれました。ファインスチールを広く知ってもらうため、業者さまだけではなく、学生さんや一般ユーザーさまにもアプローチができました。

当協議会スタッフがオリジナル法被を着て呼び込み。

レプリカを使ってご説明中。

業者さまだけではなく、学生さんにもアプローチ。

ご家族みんなで屋根の重さの違いを体感中。



体感型展示模型・ミニチュア模型の説明を熱心に聞き入る来場者。

●最終日は一般のお客様も多く来場

建設・防災関連の業者さまが多かった初日に対して、最終日の土曜日には家族づれなど一般ユーザーさまも多く来ていただきました。
少しでもファインスチールのことを知っていただこうと思い、耐震性に優れた屋根材であることや、心地よい温度を守る屋根であることなどをアプローチ。みなさま真剣に説明を聞いてくれました。
初の四国で2日間、ファインスチールの特徴や魅力を存分に伝えることができました。これからもファインスチールを広めるために、日本全国を飛び回ります。

一番人気は耐震比較模型でした。

開催結果

●来場者数報告

11月21日(金)・22日(土)、2日間で
約5,400名

●当協議会ブースへの訪問者および配布物

2日間で約200名
(ポケットティッシュ)

たくさんの方々が来場されました。

感謝の気持ちを込めてポケットティッシュをプレゼント。

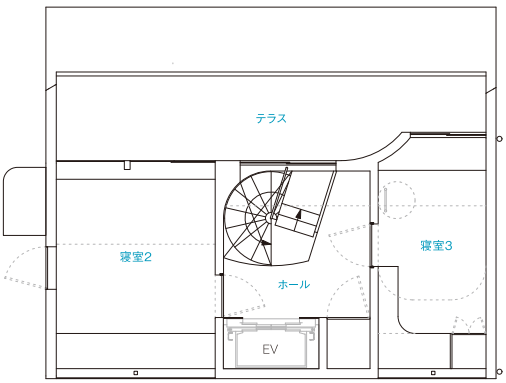
ファインスチールを使った
建築設計例 354

中野U

光を放つ

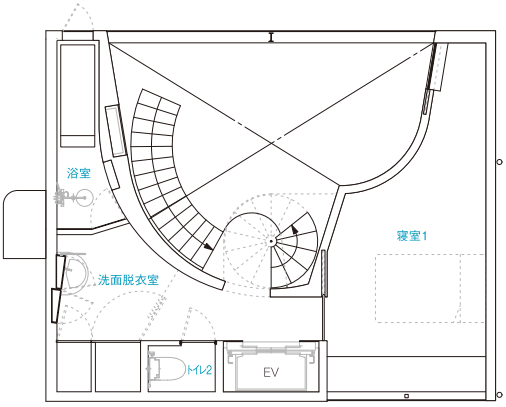
設計：都留理子＋大嶋笙平／都留理子建築設計スタジオ

（撮影：写真はすべて、淺川敏氏撮影©）

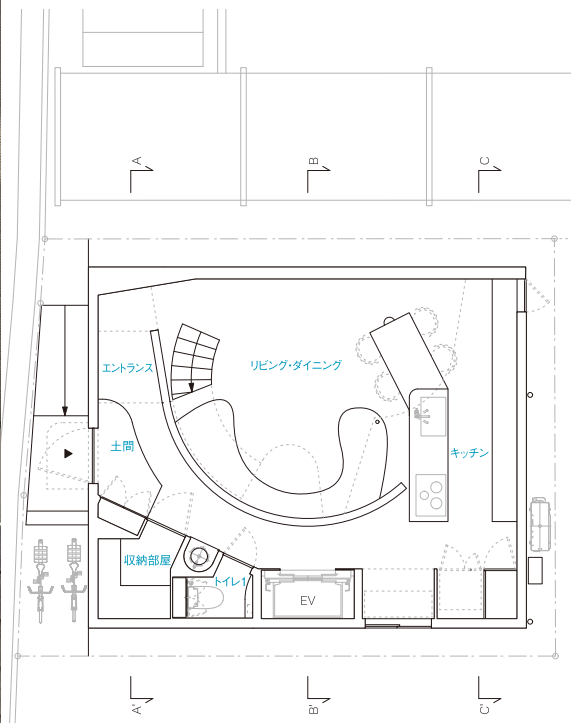


3階平面図

北側外観。この家がもたらす様々な体験が、おおらかさとのびやかさと、何らかの刺激とともにある。そのような住宅をめざした。



2階平面図



1階平面図

今回紹介する、建築家・都留理子氏が設計した“中野U”は東京都西部に位置する中野区にあり、新宿区、渋谷区、杉並区、練馬区、豊島区に囲まれている。中野区の歴史は古く、古代から人々に住み継がれてきた土地であり、区内には多くの文化財や史跡、寺社仏閣が存在する。江戸時代には将軍の命により、生類憐みの令に基づいた犬を保護するための「御囲」、鷹狩のための「御鷹場」、江戸の名所でもある「桃園」がつくられるなど、小さな江戸文化があった。近代になると1889（明治22）年に現在のJR中央線の開通に伴い中野駅が開設。郊外住宅地として発展する一方で多くの重要な軍事施設が置かれた。現在の中野区はJR線のほか西武線や地下鉄も通り、全域で交通の利便性は高い。活気と賑わいのあるJR中野駅周辺は商業施設や高層マンションも多く、また「サブカルの聖地」として有名であるが、少し離れると古くに建てられた昭和を感じる趣のある住宅と新しいデザインの住宅が混在する閑静な住宅地が広がっており多彩な文化を感じられる。

施主と建築家の出会い

施主は夫妻と二人の息子（社会人と高校生）の4人家族である。施主は国内外での転勤を経て自宅の購入を検討していた。新築ではなく‘既存の面白い家’を探していた時、都留氏が設計した「羽根木のオフィス」に出会ったことをきっかけに新築住宅の設計を依頼した。今回の住宅については、特に施主の妻の意向が重んじられた。実は妻の父は絵画も嗜む備前焼の作家であり、妻は幼い頃から芸術作品に囲まれ、美術品に触れることのできる日常の中で育った。その好みは伝統芸術から現代アートまでと広く、幼少期から培われた類まれな審美眼をもっているという。

敷地周辺と設計コンセプト

西側が公道に面し、北側は公園、南側と西側は隣家に接している。ヤマザクラとその先に空が広がっている北側の風景を気に入り、「窓から見える木や空、アートや焼き物の器、そして建築の意匠が共存し、明日に向かわせてくれる家」という施主の要望、周辺のイメージに合わせた「他とは違う味わい深さを具現化したい」という施主の要望に対する建築家の思い、この二つが設計コンセプトとなった。

外観デザイン

“中野U”は、さりげない存在感が街並みのアクセントになるデザインをしている。

■建物のデザイン

不正五角形の端正な美しさが印象的なファサードのシルエットは、北側の斜線制限により導かれた屋根の勾配により生まれた。またこの正面の開口部は玄関と上部に小窓のみだ。公園に面する東面は、一階と二階に跨る大きな開口部があり、その上部は急勾配の塗装ガルバリウム鋼板の屋根をくり抜くように設けられた三階部分の開口部がある。

リビング・ダイニング。北面に大きな開口部を設け、そこに対して腕を広げるようなU字に弧を描く壁を立てた。天井高4.8m。

道路に面した西面は外部に対して閉ざされたデザイン、公園に面した東面は外部とつながるような開放的で対照的なデザインが特徴である。

■ファサードのタイル

ファサードに貼られたタイルは3種類の窯変タイルだ。数十種類の窯変タイルから、2度の釉薬の組合せから作るタイルを6種類選び、最終的に3種類を選定した。このタイルの選定は、すべて施主の妻と共に行った。釉薬を2度掛けしたタイルは、釉薬の種類や窯の温度・湿度によって色味が少ずつ異なるという。選んだ赤茶色の3種類のタイルを道路に面する立面全体にランダムに貼ることで、昼は陽の光を受けて輝き、夕方には夕焼けと混じり合い、夜は電灯の明かりに彩られ、時の移ろいを映し出す。このようなファサードの表情の変化も街並みのアクセントとなっている。

室内空間

赤茶色のレンガに覆われた玄関を入ると、エントランスの目の前には緩やかな曲面の白い壁がある。その向こうは、陽の光が燦燦と差し込む、2階までの吹き抜けのリビング・ダイニングがある。

■壁

エントランスの壁に沿った廊下は、そこを歩く人を自然と室内へ導く。右手は家族用の動線、先に進むとキッチンを通って大きな開口部のあるリビング・ダイニングに着く。左手はゲスト用の動線、一段下がった天井の先の壁には絵画が飾られ、一歩入ると開放感のあるリビング・ダイニングが出迎えてくれる。

リビング・ダイニングの壁も白く、また開口部の下部は外からの視線を考慮した高さとなっている。キッチンの壁には、妻の父の描いた赤と青と黄をメインに使用した絵画が飾られ、棚には施主家族が気に入って買い求めた陶器が置かれ、それぞれ異なる趣向のアート作品が違和感なく室に溶け込んでいる。この白い壁こそ、さまざまなアート作品が映える空間を創出している。

■ダイニングテーブルとベンチ

リビング・ダイニングにある家具は、都留氏がデザインしたダイニングテーブルとベンチだけだ。ダイニングテーブルはキッチンカウンターと連続しており、さらに施主の要望で曲面の壁に沿って赤い色のベンチを誂えた。キッチンカウンターや壁を巧みに利用することで限られた広さの中に空間的な余裕も生まれた。

■3階まで続く階段

曲面の壁に沿って、リビング・ダイニングから3階まで続くブルーグレーの鉄骨階段がある。下から階段を見上げた時のデザインも意識しており、どこから見ても美しいフォルムをしている。白い壁、鮮やかな赤いベンチ、そして落ち着いた青い階段、それぞれが相乗的に室内空間を彩っている。また階段にもアート作品が置かれ、さらに上階に進むことが楽しみになる。

■色

ここまで紹介してきたように、白をベースに赤と青という色を空間のアクセントとして使っている。2階ではアクセントとしてだけではない色使いによる空間の演出がされている。まず、トイレである。2階のトイレは「気分を切り替える」という心理的な効果として、鮮やかな

青いタイルが扉と鏡以外の壁に貼られている。奥に鏡を入れることで空間を広く見せるなど、他の室とは異なる世界を創出した。

また夫妻の寝室の壁の色は「白い壁だと夜でも暗くならない」という妻の父の言葉をヒントに、いくつかの色を検討した結果、ピンク色に決まった。ここでも都留氏は膨大なサンプルの中から3色のピンク色を選び、施主家族と共に実際に使用した色に決めた。

建具や家具、またアートとは異なるが施主家族はこの“中野U”に住み始めて犬を迎え入れた。犬を選ぶ際にも室内空間の色彩との調和を考慮してスチールブルーのヨークシャーテリアに決めたという。

塗装ガルバリウム鋼板の魅力

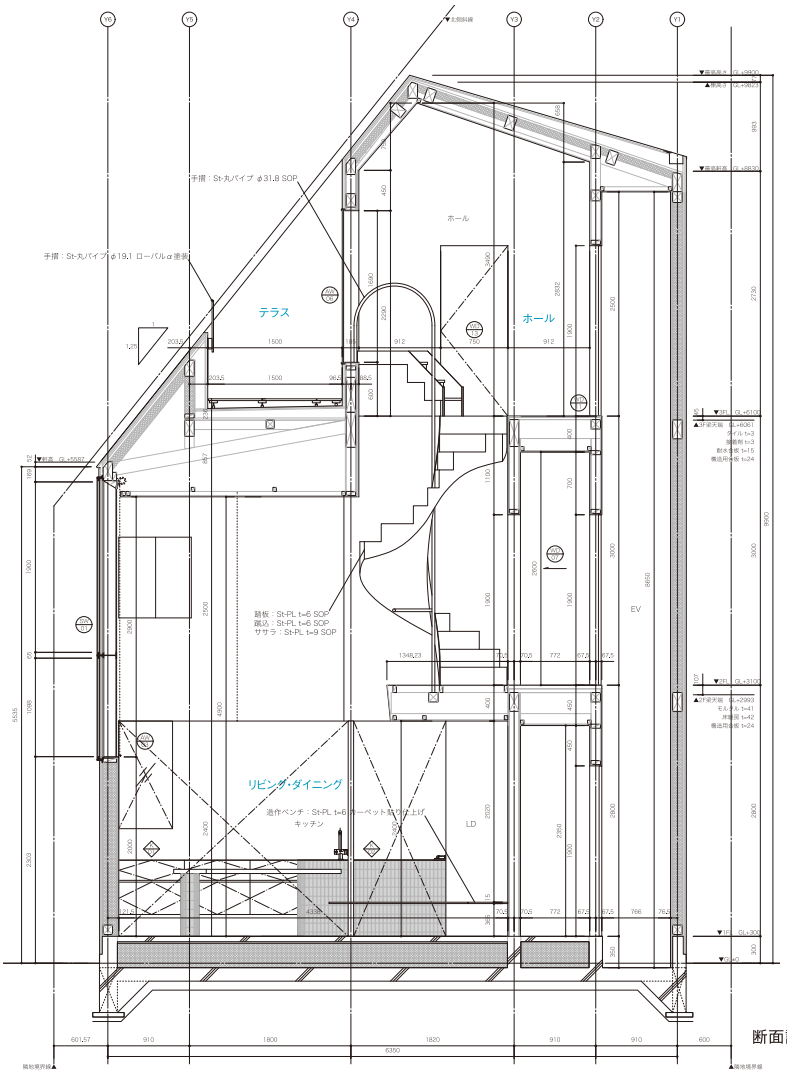
都留氏は素地のガルバリウム鋼板を使うことはほとんどない。好きな色はつや消しのシルバーで、光も樹木も周囲の色を受け止めてくれるからだという。もちろんつや消しのシルバーも微妙な色の違いがあり、敷地の周辺環境や建物デザインのイメージに合わせて選び抜いているそうだ。

住宅建築への想い

都留氏が住宅建築を行うときに心がけていることについて紹介したい。一つは住宅のデザイン。「街の中でどうあるべきか?街の中で異質にならず、将来的にも街の景色が良くなるようなデザインにしたい。それは個人の住宅という存在だけではなく、道行く人の記憶に残る‘ちょっとした街のシンボル’のような公共的な存在になって欲しい」と語ってくれた。

二つ目は施主の想いを引き出すことだ。都留氏は施主や家族と設計の相談を進める中で「人生の中で感銘を受けたこと(もの)を3つ」聴くことにしているという。この感銘を受けたこと(もの)を話すことで、話し手は話しやすい言葉で語り、その中から話し手の想いや価値観を受けとめ、施主の望んでいることを見出すのだという。また「具体的な要望にとどまらず、抽象度の高い価値観を共有しそれを実現することで、オーナーが替わっても価値が毀損しない存在となる」住宅をデザインしたいとも話してくれた。このような丁寧な施主との関係や街に対する敬愛からつくられる都留氏のデザインする住宅は、物理的に室内に光を取り込み、外壁で光を受けとめ、室で光を灯すだけではなく、行き交う人々に時を感じさせるような、住む人・見る人・通る人の心に留まる、灯台のような、道標のような存在なのかもしれない。今回紹介した“中野U”は「光を放つ存在」という都留氏の言葉が相応しい事例だ。

寝室1。幅が絞られた奥のスペースはリビングに対し開口部を持ち、家族の気配や外への眺めとともに一人の時間を過ごすための場所となっている。



断面詳細図

設計：都留理子＋大嶋笙平／都留理子建築設計スタジオ
有限会社都留理子建築設計スタジオ／〒213-0033 神奈川県川崎市高津区下作延
[tel&fax]044-272-6932　[URL]https://ricot.com/
レポーター：東京大学 大月研究室　深見 かほり

建築めぐり

ウォートルス伝39

アーネストが深く関わったテルライドの鉱山(4)

藤森研究室

担当 丸山 雅子(もとこ)

「サン・ミゲル郡の繁栄の大部分は、スマグラー鉱脈(the Smuggler vein)によるものである。この鉱脈に属する各鉱区の産出は、同郡へ資本の関心を引き寄せる上で大きな役割を果たし、テルライドの発展にも、他のあらゆる要因を合わせた以上の貢献をしてきた。もしスマグラー鉱脈の鉱区群が存在しなかったなら、この郡の評価は現在ほど高まることはなく、その将来もこれほど有望とは見なされなかったであろう」と、1890年の新聞記事は述べている(注1)。

本連載では、これまでスマグラー鉱脈に属するシェリダンおよびメンドタの両鉱区を取り上げてきた。今回は、その名の由来となったスマグラー鉱区に焦点を当てる。

(4)スマグラー鉱区(The Smuggler mine)

スマグラー鉱区は、テルライドの東5マイル(約8km)、マーシャル盆地の標高約11,800フィート(約3,600m)に位置する。シェリダン鉱区の南、ユニオン鉱区の北に挟まれた場所である。シェリダンとユニオンが1875年8月に鉱区設定されたのに対し、中間の空白地は翌1876年夏、ユーレイのJ・B・イングラムと共同者2名によって鉱区設定され、「スマグラー」と命名された。区画は300フィート×1500フィートである。

スマグラー鉱脈は、この鉱区の発見以前にはほとんど注目されていなかった。スマグラーで高品位の鉱石が発見され、継続的な出荷が開始された後も、その評価は「スマグラーに良い鉱脈瘤がある」という程度にとどまっていた。しかし、シェリダン、メンドタ、ユニオンと周辺鉱区の開発が進むにつれて、鉱脈の連続性が認識され、やがてサン・フアン地方屈指の鉱脈として評価されるに至ったのである。

この鉱脈は数マイルにわたって延び、1890年までに16の鉱区が密に設定されていた。これらが同一の鉱脈上にあることは疑いようがなかった(注2)。

もっとも、初期のスマグラーは未成熟な鉱区であった。発見後11年間はJ・B・イングラムによって操業され(注3)、高品位の鉱石を産出したものの(注4)、採掘は長く地表付近に限られ(注5)、輸送条件も劣悪であった。

1884年には、サン・ミゲル郡の鉱業全体が「科学的に厳密に言えば、まだ“鉱山”と呼べるものは存在しない」と酷評され、シェリダンもスマグラーも「せいぜいある程度まで開発された探鉱地」に過ぎないと評されている(注6)。

この状況を変えたのが、アーネストであった。シェリダンは1883年11月、彼によって在上海の英国人投資家のために買収され、シェリダン鉱山会社(Sheridan Mining Company)が設立される(本誌2025年夏号参照)。アーネストの指導のもとで開発が始まり、登山道の整備などにより、スマグラーもその恩恵を受けることとなった(注7)。

さらに1887年、シェリダン側はメンドタを取得し、メンドタ鉱山会社(Mendota Mining Company)を設立したうえで、アーネストをゼネラルマネージャーとして両鉱区の一体開発を進めた。彼は、クロスカット・トンネル、トロッコ軌道、インクライン、選鉱場からなる輸送・処理システムを計画し、1888年11月にクロスカット・トンネルの掘削に着手した(本誌2025年秋号参照)。

同時期、スマグラーでも深部で鉱脈が確認されており(注8)、シェリダンで進められていた輸送・処理システムは、スマグラーの深部開発と輸送問題の解決にも大きく寄与するものと考えられた。

1888年7月の報道によれば、人員はシェリダン・メンドタ約200人、スマグラー約50人、ユニオン約100人であった(注9)。同年9月には、スマグラーは平均60人で日産10〜12トンを産出していた(注10)。また、鉱脈上の各鉱区はいずれも順調で、「すでに事業段階に到達し、作業は企業のごとく組織的かつ規則的に進められている(They have reached the business stage, and the work is carried on with the system and regularity of a business enterprise)」と報じられている(注11)。こうして、かつての「探鉱地」という評価は、この時点で明確に過去のものとなっていた。

1888年、スマグラー鉱脈全体の産出額は約125万ドルに達し、サン・ミゲル郡全体の約8割を占めた(注12)(表1)。

	産出量(tons)	産出額($)
シェリダン・メンドタ	9,500	1,000,000
スマグラー	950	90,000
ユニオン	2,500	165,000
上記以外の マーシャル盆地の鉱区の合計	800	42,000
マーシャル盆地の合計	13,750	1,297,000
サン・ミゲル郡の合計	23,780	1,601,000
マーシャル盆地の占める割合	57.8%	81.0%

表1:サン・ミゲル郡の鉱石産出量・産出額(1888年)

この時点では、スマグラーの規模はシェリダン・メンドタに比べて小さい。しかし、同一鉱脈上にあり区画長も同じであることから、将来的な伸びしろは最も大きいと考えられる。また、マーシャル盆地の産出は量に対して価値の比率が高く、鉱石の品位の高さがうかがえる。
出典:『The Solid Muldoon 』1889年1月11日, 3頁.

1888年12月、スマグラー鉱区は約50万ドルでアーネストとJ・A・ポーターにボンド契約(売買予約契約)された(注13)。翌1889年2月にはスマグラー鉱業会社(The Smuggler Mining and Milling Company)が設立され、資本金50万ドルで、ポーターが社長、アーネストがゼネラルマネージャーに就任した(注14)。

アーネストは、R・トイザイスおよびN・T・マンスフィールドとリース契約を結んだ。両名はシェリダン・メンドタにおいて、前者は現場監督、後者は長年会計係を務めた人物である。アーネストが自ら計画を担い、彼らが採掘および開発工事を担当する体制を整えた(注15)。

1890年以降、その成果は急速に現れる。1890年1月、同社はコロラド州で正式に登録され(注16)、産出量と人員はいずれも増加を続けた(注17)。このころには、シェリダン、メンドタ、スマグラーの三鉱区は一体として扱われ、「The Sheridan-Mendota-Smuggler group」や「The Sheridan-Mendota-Smuggler combine」などと呼ばれることもあった(注18)。さらに、「三鉱区は事実上一体である(all three claims which are now regarded as practically one)」と明言されてもいる(注19)。

7月には、三鉱区で500人以上が雇用され(注20)、統合された資本と技術のもとで、三鉱区の深部開発が本格化した。

そして同年9月および10月の記録では、スマグラーの産出量はついにメンドタおよびシェリダンを上回った(注21)。これは、アーネストの関与がもたらした成果とみられる(表2)。

さらに11月には、コロラド造幣局が、スマグラー鉱脈を最高品位と評価し、その価値は公的にも認められた(注22)。

	1889年(台)	1890年(台)
シェリダン	78	87
メンドタ	75	81
スマグラー	65	161
ユニオン	60	49
四鉱区の合計	278	378
サン・ミゲル郡の合計		422
四鉱区の占める割合		89.6%

表2:サン・ミゲル郡の鉱石産出量(鉄道貨車換算)

表に示される通り、スマグラーの産出量は前年比で急増している。これは、ウォートルス取得後の成果が数値として明確に現れたといえる。
出典:『The Rocky Mountain News 』1891年1月7日, 9頁.

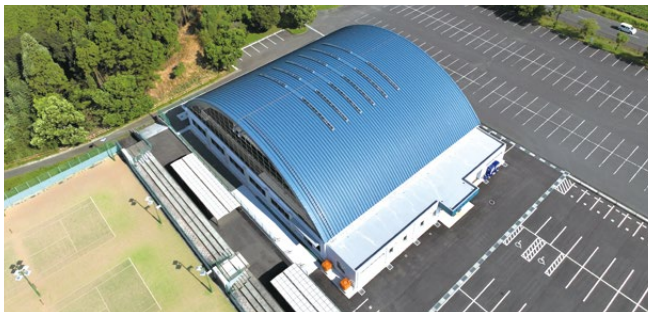
1891年1月、ユニオンが売却された。地元ではスマグラー鉱脈上の四鉱区を一体的に運営する構想が抱かれていたが、これは実現しなかった。その背景には、シェリダンおよびメンドタを所有していた在上海の英国人投資家の意向があったとされる。結果として、シェリダンとメンドタ、スマグラーとユニオンの二つの企業に分かれ、管理・開発が行われることとなった(注23)。

(注)
1 『The Rocky Mountain News』1890年1月14日, 9頁.
2 同上
3 『Telluride Republican』1888年12月7日, 3頁.
4 『The Solid Muldoon』1883年6月22日, 1頁, 同年９月14日3頁, 同1885年7月3日3頁, 『The Colorado Daily Chieftain』1883同11月29日, 5-6頁ほか
5 『The Rocky Mountain News』1883年3月16日, 2頁,
6 『The Rocky Mountain News』1884年12月24日, 6頁
7 『San Miguel Journal』1886年5月29日, 3頁
8 『The Silver Standard』1887年11月5日, 1頁.
9 『Telluride Republican』1888年7月27日, 3頁.
10 『The Colorado Miner』1888年9月29日、1頁.
11 『Telluride Republican』1888年9月28日, 3頁
12 『The Idaho Springs News』1889年3月22日, 3頁.
13 『The Solid Muldoon』1888年12月28日, 3頁
14 『The Rocky Mountain News』1889年2月22日, 9頁
15 『The Rocky Mountain News』1889年6月29日9頁, 同1890年7月20日, 17頁.
16 『The Rocky Mountain News』1890年1月10日, 4頁.
17 『The Rocky Mountain News』1890年3月17日, 6頁, 同4月20日5頁.
18 『The Solid Muldoon』1890年8月1日, 3頁, 同1891年1月30日3頁.
19 『The Aspen Daily Chronicle』1890年10月18日, 4頁.
20 『The Rocky Mountain News』1890年7月22日, 9頁
21 『The Rocky Mountain News』1890年10月9日, 9頁, 同10月30日, 9頁, 『The Colorado Daily Chieftain』1880年11月14日, 3頁.
22 『The Solid Muldoon』1890年11月21日, 3頁.
23 『The Rocky Mountain News』1891年2月6日, 9頁.

街でみかける ファインスチールの施工例 その63

東市来ドーム

鹿児島県日置市にある屋内運動施設として建設されたドーム型施設。
広い空間を確保するため、鉄骨構造による大スパンの屋根構造が採用されている。屋根材には、耐食性に優れた塗装ガルバリウム鋼板が採用されており、母屋や下地材を設置した後に屋根材や外壁パネルを取り付けることで外装が仕上げられている。また、接合部のシーリングや棟板金、軒先板金などの建築板金工事により、防水性や耐候性の確保が図られている。
完成後は地域住民や学生など多くの人に利用されており、天候に左右されずにスポーツやイベントを行える施設として地域に親しまれ、多くの人々に喜ばれている。



2 トヨタ記念病院

1987年に愛知県豊田市平和町へ移転して以降、地域医療を担う中核病院として医療提供を行ってきた。
移転から35年が経過した2022年頃には、建物や設備の老朽化が進むとともに、高度化する医療ニーズへの対応が課題となった。これを受け、施設の更新と医療機能の強化を目的とした病院再構築計画「ReBORN（リボーン）」が策定され、大規模な改修および建て替えが段階的に進められた。
新病院棟は鉄骨造を主体とする構造となっており、医療機器の高度化や将来的な設備更新にも対応できるよう、院内動線や設備配置の最適化が行われている。また、外装には塗装ガルバリウム鋼板を採用し、建物の耐候性と維持管理性の向上が実現されている。さらに、免震構造や搬送ロボットなどの先進設備も導入され、災害時にも医療機能を維持できる体制が整えられている。
新棟（本館）は2023年5月1日にオープンし、地域医療を支える高度医療拠点として生まれ変わった。

FINE STEEL!

全国ファインスチール流通協議会
ファインスチールイメージキャラクター
ファイン君

ボクらは「自在に変化」進化した鉄！

ファインスチールは、鉄の長所を最大限に活かしながら、これからの家と暮らしにふさわしい特長を合わせ持つ、現代建築の最適な素材として注目を集めています。新しい住まいで始まる暮らしをより良いものに。
ファインスチールが理想のカタチを実現します。

ボクらの
特長

地震につよい　表面がきれい　環境にやさしい

屋根材・壁材には ファインスチール

FINE STEEL

全国ファインスチール流通協議会

http://www.zenkoku-fs.com

Fine Steel

ファインスチール　第七十巻　二号
令和八年四月二十五日発行
四、八、十二月二十五日発行
発行所　一般社団法人　日本鉄鋼連盟　建材薄板技術普及委員会
〒103-0025　東京都中央区日本橋茅場町3-2-10鉄鋼会館
☎03(3669)4815　FAX03(3667)0245